



奇跡の同点劇!東京武蔵野シティFCが1回戦を突破 天皇杯 JFA 第100回全日本サッカー選手権大会



主催：(公財) 日本サッカー協会
(公社) 日本プロサッカーリーグ
主管：(公財) 東京都サッカー協会
日時：2020年9月16日(水)
会場：味の素フィールド西が丘(無観客試合)

9月16日、無観客試合で開催された「天皇杯 JFA 第100回全日本サッカー選手権大会」。東京都代表の東京武蔵野シティFCは栃木県代表の栃木シティFCに一時は0-3とされながら試合終盤に怒涛の反撃で追いつき、PK戦の末に勝利した。

3点のビハインドを6分で追いつく!

前半は立ち上がりから両陣共に動きの固さもあり、互いにチャンスを作れず、決定機と呼べるシーンはほぼなかった。武蔵野はタイトに守りながら攻めで精彩を欠き、栃木は主導権を握りながらも攻めあぐねた。ただ、それはカテゴリーが上の武蔵野にとって良い流れとは言えなかった。池上寿之監督が「相手のペースで進んだ感覚だった」と0-0で迎えたハーフタイムまでを振り返ると、栃木・主将のDF内田錬平は「プラン通りだった」と手応えを掴んでいた。

流れの悪い武蔵野は後半のスタートからDF金井洵樹に替えて高さのあるFW中川諒真を投入し、前への圧力を強めた。しかし、試合が動いた60分。栃木のCKをGK本田渉がファンブルすると、その溢れ球を栃木DF内田が詰めて先制を許してしまう。

武蔵野は71分にFW田口光樹を入れて反撃を試みるも直後の73分、再びCKから2失点目。警戒していたセットプレーから立て続けに得点を奪われた。少しでも早く1点を返したい武蔵野は、74分にドリブルの得意なMF後藤準弥を投入して前線を4人並べるスクランブル態勢に入った。

しかし、その4分後にMF池田直樹がペナルティエリアで相手を倒しPKを献上。痛恨の3失点目を喫した。このとき、池上監督は「僕もベンチで少し諦めた素振りを見せてしまった」とその精神的ダメージを語った。残り時間は12分とアディショナルタイム。窮地に立たされる中、ピッチの選手たちは少しも諦めていなかった。

そして終了間際の88分、右サイドからMF池田のグラウンダーのクロスニアでFW中川がすらし、ファーでFW田口が詰めて1点を返した。ようやく反撃の狼煙を上げるとアディショナルタイム1分、今度はFW中川とのコンビネーションで崩したFW石原が2点目を返す。武蔵野はこの土壇場でもロングボールを放り込まず、地上戦にこだわった。「長いボールを意識させようとも思ったが、選手たちを信じて任せた」と池上監督。その監督の思いに応えたアディショナルタイム4分、右サイドを崩したFW石原が滑りながらのクロスを入れると、再びFW田口が押し込んで3点目。わずか6分間の同点劇だった。

流れが大きく武蔵野に傾いたまま延長戦に突入。しかし、栃木も落ち着きを取り戻し、延長30分で決着はつかず、PK戦へともつれ込んだ。武蔵野一人目のキッカーの石原がゴール右へと外すもその後5人が成功。栃木が2本を外し、武蔵野が1回戦突破を決めた。

池上監督は「2回戦もカテゴリーが下の相手との対戦。天皇杯はジャイアントキリングの大会なのでまた厳しい闘いになる。Jリーグのチームと当たる準々決勝までは進みたい」と快進撃を誓った。

9月23日には2回戦に臨み、VONDS市原FCとの延長戦の末に3-2で競り勝った。第92回大会ではJリーグのFC東京を撃破する大金星を挙げた武蔵野。10月28日に行われる筑波大学との3回戦を突破し、Jクラブへの挑戦権をつかみとれるか。



天皇杯 JFA 第100回全日本サッカー選手権大会 1回戦

東京武蔵野シティFC (東京都代表)		3	0-0 3-3 PK戦 5-4	3	栃木シティFC (栃木県代表)	
90分、延長30分、PK戦						
120分	本田 渉	④	GK	GK	①	大石 文弥
HT	金井 洵樹	②③			⑦	鈴木 隆雅
	高 慶汰	②			②	内田 錬平 (Cap.)
	望月 湧斗	③④	DF	DF	②②	永見 廉
	小口 大貴	①⑦			②⑦	丹野 裕太
	差波 優人	③			④	岡本 洵
74分	岩田 啓佑	⑦			①⑨	関戸 裕希 83分
104分	鈴木 裕也	⑤	MF	MF	③	清水 貴文 71分
71分	本田 圭佑	⑨			②④	飯島 翼 71分
	池田 直樹	②⑧			③③	吉田 篤志 83分
	石原 幸治 (Cap.)	①⑧	FW	FW	④④	黒石川 瑛 75分
④①	西岡 佑馬	①	GK	GK	②⑨	シュナイター 潤之介
	大倉 康輝	②⑨	DF	DF	①⑤	田中 寛己 ②③
	小野寺 湧紀	④	MF	MF	③③	阿部 巧 ①⑨
⑤	小林 大地	⑧	MF	MF	⑥	高地 系治 ①⑦
⑦	後藤 準弥	②⑥	MF	MF	③③	岡庭 裕貴 ②④
④④	田口 光樹	⑨	FW	FW	①⑦	若杉 輝希 101分 ④④
②②	中川 諒真	①⑥	FW	FW	①⑧	田中 輝希 ②②
	池上 寿之		監督	監督		中村 敦
田口(88分&90+4分)、石原幸治(90+1分)		得点		内田(60分)、永見(73分)、吉田(78分) 鈴木(102分)、石原(118分)		
		警告		吉田(46分)、永見(67分)		
		退場				

INTERVIEW

監督 池上寿之

「こんなことがあるのかと。選手が最後まで諦めなかったことが大きかった。監督は戦術的なことは仕込めるけれど、結局最後に戦うのは選手たち。あの局面で僕が動かなかったことで「もう自分たちでやるしかない」というメッセージが伝わり、奇跡的な奮起にも影響はあったのかなと思う。」

FW / 18 石原幸治

「本当に負けに等しい試合だった。でも武蔵野は1点取れば勢いに乗れるチームなので、最後まで諦めずにうちの良さを出せたと思う。同点に追いついた瞬間は、これだからサッカーってやっぱりやめられないなと思った。自分がPKを外したのは最悪だったが仲間を信じていた」

FW / 9 田口光樹

「1点取られてからの投入で、とにかく1点を返すことを考えて入った。個人的にリーグが再開されてから点が取れていなかったの、2得点という結果に繋がって満足している。この試合は大きな自信になったので、2回戦もこれを生かしてすべてを出し切りたい」